

Social Contribution

社会貢献



企業としての役割を果たし 地域社会の発展に貢献することで 人々に信頼される企業を目指します

企業が市民社会と協力し、ともに持続的な成長を実現することは、企業の重要な役割であると考えています。東京エレクトロンは、社会貢献活動を通じて地域社会との信頼を育み、ともに発展する企業を目指します。

主な活動



社会貢献活動の考え方

地域社会は事業活動の基盤です。東京エレクトロンは、地域の課題に取り組むことで、企業市民としての役割を果たし、地域との厚い信頼関係と強固なパートナーシップを築いていくことを目指しています。また、グローバル経済社会の一員として、かけがえのない地球の環境保護に努め、国際社会の将来的な発展と夢のある社会の実現のため、世界の持続可能性に影響する普遍的な課題に対し、当社がもつテクノロジーの強みやステークホルダーとのネットワークを活用し、長期的に取り組めます。

ローカルに、そしてグローバルに、両方向から社会の長期的な発展に貢献していくことが、当社の社会貢献活動です。

方針

- 当社の社会貢献活動は基本理念の趣旨と照らし合わせ、教育・人と健康・環境・文化を重点分野とし、さらに地域ごとの社会課題に沿った取り組みを選定しています。
- 当社の中長期的な経営戦略の方向性を見据え、事業活動を通じて、解決すべき将来リスクや産業全体のサステナビリティ課題、またグローバル社会に影響のある地球規模の課題において、取り組みを推進します。
- 取り組み内容は、社会への影響度、予算、そして事業への長期的な貢献度合いによって妥当性を毎年見直します。

2015年度の目標と実績

テーマ	目標	実績
社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会貢献活動の全社方針と実行の基準を設定する ● 社員ボランティアプログラムの拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会貢献活動の基本方針を作成し、2016年度全社展開予定 ● 教育関連イベントなどでのボランティア機会の提供

持続可能なグローバル社会のために

人類課題の解決に向けて

東北大学 知のフォーラム

「東北大学 知のフォーラム」は、ノーベル賞受賞者など世界的に権威ある研究者と若手研究者や学生が集い、広く人類の課題や社会問題の解決に向け先進的な研究を行うプログラムです。東京エレクトロンは、次世代を育成し、また、当社製造拠点である東北の地域振興と活性化を支援することが大事な役割であると考え、2013年のパイロットプログラムから全面的に支援しています。

2015年4月には年度はじめのイベントとして「春の学校」が開催され、ノーベル物理学賞受賞者であるヘーラルト・トホーフ

教授（オランダ・ユトレヒト大学）を含む第一線の研究者と60名の学生が、5日間のプログラムに参加しました。そして、同年5月には、プログラムの主要拠点となる「TOKYO ELECTRON House of Creativity (知の館)」が竣工し、知のフォーラム設立当初の構想である「訪問滞在型の研究施設」として実質的な運用を開始しました。

2015年度は、「脳科学最前線」「技術変化が社会移動・所得分配に及ぼす影響」「量子物理学における基本問題」「スピントロニクス」に関する4プログラムが実施されました。



URL <http://www.tel.co.jp/environment/tohokuuniv/index.htm>

多様化するイノベーション環境への支援

ニューヨーク州立ポリテクニク・インスティテュート

2015年10月、当社は米国ニューヨーク州立ポリテクニク・インスティテュート (SUNY Poly[※]) のナノテクメガプレックス (ニューヨーク州アルバニー) に対し、SUNY Poly と共同で5年にわたり計262.5百万ドルの支援を実施することを決定しました。

SUNY Poly の先端 R&D センターと、隣接するナノスケール理工学部 (CNSE) では、当社の技術者のみならず、SUNY Poly の研究者・学生・教授および近隣企業の研究者・技術者などが共同で、日々研究開発活動を行っています。ここはそれぞれの組織の壁を越えた多様なコラボレーションが実現する、最先端技術開発のイノベーション創出の場となっています。



当社は2003年の設立当初から、当地域のオープンイノベーション活動を積極的に支援し、世界でも最高峰の産学官協同研究機関の発展に貢献しています。この取り組みを通して、将来テクノロジーの開発とこれらがもたらす社会イノベーションの実現を支援していきます。

※ SUNY Poly: 米国ニューヨーク州立ポリテクニク・インスティテュート。ニューヨーク州立大学ナノスケール理工学部 (CNSE) とニューヨーク州立工科大学が統合された研究機関

URL <https://sunypoly.edu/>

地域社会とともに

東京エレクトロンは、国内 29 拠点、海外 15 の国と地域 45 拠点にわたり事業活動を行っています。そのうち、従業員の 3 分の 1 は海外の拠点で働いています。当社の事業活動のフィールドは世界中に広がり、それぞれの地域の皆さまに支えられて事業活動を続けることができています。

フランス

SEMI High Tech U

業界団体 SEMI による High Tech U プログラムにおいて、お客さまや同業企業とともに高校生への科学教育を支援しました。当社社員は自社のトレーニング教材などを用い、半導体業界やナノテクノロジーの講義を務めました。



日本

サイエンス・インカレ

自然科学分野を学ぶ学生が研究の成果を発表し競い合うこのイベントは、日本の科学技術の向上と持続的発展に必要な能力を備えた次世代エンジニアの育成を担っています。2015 年度は日本全国から予選を通過した 176 組が参加しました。



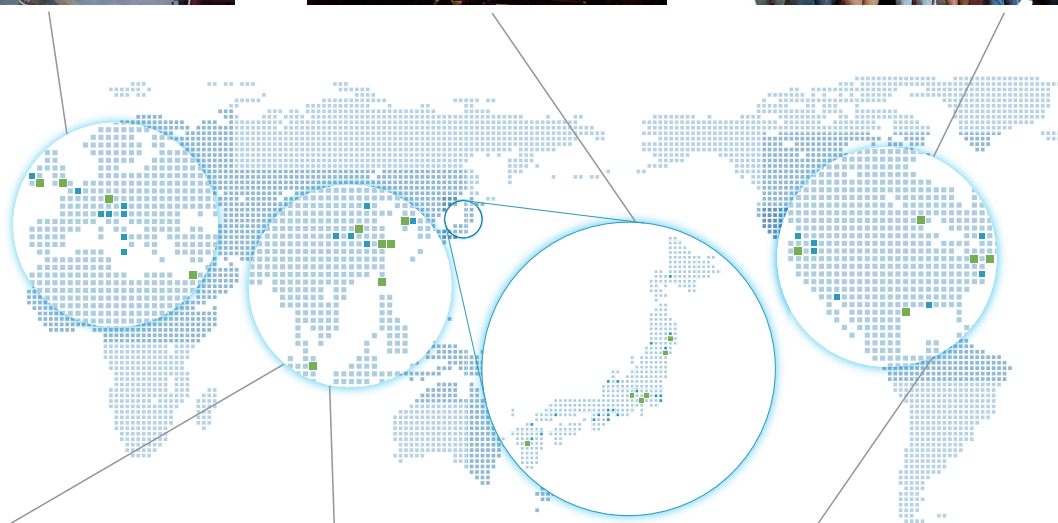
米国

SPARK プログラム

テキサス州立大学の SPARK プログラムを通じ学生の STEM^{※1} 教育を支援しています。インターンシップや、ジョブシャドーイング^{※2}、工場見学、メンタリングにより学生の学びの機会を提供しています。

※1 STEM: 科学・テクノロジー・エンジニアリング・数学

※2 職業体験プログラムの一種で、社会人に「影」のように密着して行動し職場での仕事を学ぶ



中国

張江 Fun Run

第八回張江 Fun Run は、Helping people, Making friends, Building community を趣旨とし、地元企業から 59 社、2,250 名が参加しました。Tokyo Electron (Shanghai) Limited は第一回大会から継続的に参加しています。



台湾

地域との交流

地域の大学からこれまで 102 名の学生や教授の企業訪問を受け入れています。会社紹介や半導体の説明などを通じ、半導体業界全般の理解の創出に貢献しています。



米国

Partnership for Children

非営利の児童支援団体である Partnership for Children では、学習支援などの福祉活動を行っています。ケースワーカーの活動や、児童が必要とする衣服や学用品の提供などを実施しています。

